

梅雨空に彩り多き  
アジサイは  
疲れし心に明かりを  
灯す

池田町大字池田3089-4  
薄井孝彦 Tel・Fax 0261-62-5093  
mail : peace-ikeda@peach.plala.or.jp  
http://web-ariakesan.com/

## 「会染保育園と池田保育園の統合」問題 を考える

7月10日・7月18日の両日、議員協議会が開かれ、町から「会染保育園を池田保育園に統合する」最終案が示されました。今後、町は議会との協議、町民説明会などを行っていくものと思われませんが、「令和8年度から新しい環境での園生活開始（令和6年度：設計、令和7年度：統合工事完了）」を目標としています。今回は町の考えかたの概要とその問題点を考えてみました。



会染保育園



池田保育園

### 《町の案 「会染保育園を池田保育園に統合する」（案）の考えかた》

- ①少子化にともなう園児数の減少、会染保育園の不具合（雨漏り、壁面亀裂など）、経費削減などを考慮し、会染保育園（定員120、現員76）を池田保育園（定員150、現員83）に統合する。なお、統合にともない会染地区からの通園が遠くなるので、3歳以上児の希望者には無料の通園バスを出す。
- ②統合のメリット：現況の保育士数で補充なく運営できる。園舎の不公平感がなくなる。老朽化した園舎管理の職員心理的負担の軽減。同年代が1クラスから2クラスになるため園児の活動範囲が増える。保育園の時から町内全ての子どもと仲良くできる。大勢の集団の中にいることで自立と社会参加を見据えられる。
- ③町は今後の出生児予想と未満児を保育園で受け入れることを可能とする国の方針を受け、令和5年から令和10年の年度毎の0歳～5歳児毎の園児数を推定し、下記のような対応策を示した。  
【7月10日案】出生児数を40人/年とした場合、年度毎の総園児数の推定は。⇒156人～186人となる。  
3歳未満児室は面積基準に満たないので、池田保育園東側の園庭に未満児用保育室を増設する（建築面積：3,941㎡、概算建築費：2億6千万円）。

【7月18日案】出生児数を25人・30人/年とした場合、年度毎の総園児数の推定は。⇒130人～161人となる。  
3歳未満児室は面積基準に満たないので、池田保育園東側の園庭に民間の小規模事業所（未満児園児数：19人）の誘致を考える。小規模事業所の建設は民間事業所が行い、国から1/2補助があるため、町の持ち出しは建設費の1/4の2,000万円～2,500万円程度になる。

### 《「2園の統合（案）」の問題点について（私の意見）》

- ①会染地区から保育園がなくなることの問題点
  - 会染地区から池田保育園への通園は保護者の大きな負担となる（特に未満児保護者）。
  - 生活圏内に保育園があることは保護者の願いであり、自治体がなす住民福祉の基本事項と考える。（参考：松川村も南・北で2保育園がある。）
  - 保育園と地域のつながりは大きく、地域の活性化に果たしている役割は大きい。移住者にとって地域に保育園があることは重要である。町の喫緊な課題は人口減対策であり、統合案は人口減に拍車をかける可能性がある。
- ②統合は子どもの成長にとって問題はないのか。
  - 統合案の3歳以上児一人当たりの国面積基準（1.98㎡/人）は満たすものの、かなり混雑した状態になるのでは。統合して園児数が増えれば遊具遊びは不便にならないのか。園児の活動範囲が増えるとは言いがたい。また、園庭遊びの調整も必要となり、使いづらくなる。現在、両園は園庭も広く子どもは伸び伸び遊ぶことができる。統合による様々な制約が子どもの成長に良いと言えるのか。
- ③今後の対応について：早急に、会染保育園の屋根掛けを行い雨漏りを防ぐ。電気を別系統で導入して全保育室にクーラー設置する。今後5年間程度、出生児数や財政状況をみて、統合の必要性を判断すべきではないか。